



縄文時代の人口動態に関する研究

[キーワード: 考古学、西日本、縄文時代、人口動態、集落、GIS]

准教授 山口 雄治

<研究の概要>

現代社会を見ても明らかなように、人間集団の規模すなわち人口は、人間生活の安定・繁栄や社会の性格とその変化を評価する上で極めて重要な項目です。人口の規模が考古学や文化人類学による社会分類の際の一つの指標として設定されてきたことや、人口の増加や減少、人口密度などが文化や社会の盛衰や複雑性、変化の重要な要因となることなど、古くから多くの研究がなされてきました。しかし、考古資料には様々なバイアスがかかっており、人口動態を推定することは容易ではありません。

私はこの問題に対し、西日本の縄文～弥生時代を対象として、①GIS(地理情報システム)を用いた縄文時代の遺跡・年代測定データベースの作成および年代測定、②集落の分析、③生業遺構や動植物依存体、種実圧痕等の分析および土器付着炭化物の炭素・窒素安定同位体分析、④空間バイアス低減のための遺跡存在予測モデルの構築、そして⑤これらを統合し、人口動態・古環境イベント・利用資源とその変化、そして社会変化との関連性について考察することを試んでいます。

1万年以上にもわたる縄文時代の人口動態と文化・社会変化の研究は、世界の考古学や人類学、民族学、歴史人口学など多様な分野に非常にユニークな情報を提供するものと考えています。

この他に、西アジア地域を対象として農耕集落から都市が形成される過程をさぐるため、そして西アジア地域との比較を通じた日本の先史時代文化における独自性を理解するために、トルコ共和国で発掘調査も行っています。

<主要研究業績>

・山口雄治(2022)「キュルテペ遺跡の赤黒土器—紀元前4-3千年紀の地域間交流—」『西アジア考古学』23 日本西アジア考古学会 101-110頁

・山口雄治(2024)「岡山の縄文時代:環境・文化・人口」『岡山の自然と文化』43 岡山県郷土文化財団 53-102頁

・山口雄治(2024)「岡山平野における縄文～弥生時代の水利用」『国立歴史民俗博物館研究報告』249 国立歴史民俗博物館 33-44頁

・山口雄治(2025)「遺跡存在予測の実際①(岡山の事例)文化庁監修『月刊文化財』743 第一法規 20-23頁

<地域(行政)、NPOや企業との連携・共同研究実績>

・藍住町文化財保存活用地域計画推進協議会委員

・徳島市文化財保護審議会委員

・徳島市立考古資料館協議会委員

<地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>

・縄文～弥生時代の遺跡からみた地域社会

・遺跡の保護・活用

専門分野 : 考古学(日本・西アジア)

E-mail : yamaguchi.yuji@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-7155

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/246785/profile-ja.html>